



発行所

日本聖公会 東北教区
仙台市青葉区国分町2-13-15

TEL 022-223-2349

FAX 022-223-2387

URL <http://nssk-tohoku.com/>

シリーズ「東北の信徒への手紙」 「鍵をかけた心に響く主の平和」

司祭 ステパノ 越山 哲也

戸にはみな鍵がかけてあったのに、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。(ヨハネによる福音書20:26)

新型コロナウイルス感染症蔓延予防対策のために、東北教区内のすべての教会の礼拝や諸集会在休止され、教会に集まって礼拝をささげることが当たりまえではなく特別な恵みだったのだと今、皆さん誰もが思われているのではないのでしょうか。

主の弟子たちは、イエスご自身が十字架の苦難を予告していたにも関わらず、そんなことがあるわけがない、そんなことがあるてはならないという心理状態であったと思います。

新型コロナウイルス感染症が中国で発症したという報道を昨年12月に耳にした時は正直なところ情けないのですが

私にとってそれは対岸の火事
で、まさかこんな事態になる
とは想像出来ませんでした。
これから大きな苦難が到来
するから備えておかなければ
ならないことは耳にはしてい
ながら心が向き合っています



んでした。そんなことがある
わけがないとこれから起こり
うる事から逃れようとしてい
る自分自身と主の受難の予告
を受け止めない弟子たちの姿
が重なります。

イエス様はご自身の予告通
りに十字架上で死なれました。

その現実を突きつけられた弟
子たちの生活は変わっていき
ました。皆、それぞれの家に
鍵をかけて閉じこもってしま
いました。

英国の聖公会はコロナ対策
のために礼拝を休止するだけ
でなく、物理的にも教会の扉
に鍵をかけていることを知り
ました。教会の扉はいつでも
開かれていなければならな
いのに、それすら出来なくな
っている状況です。

多様な価値観を
持っている人間です
から現在の状況に対
してもそれぞれ考え
方があって当然です。
一番悲しいことはこ
のような生活が続く
と人の心が皆さんで
くるのです。

多様性は私たちを
神様に心を向けさせ
るものなのですが、情報が嵐
のように飛び交う中で何を信
じて良いのか分からず不安と
怖れの中で多様性を受け止め
ることが出来なくなってしまう
、様々な弊害によって私と
神様の関係を、そして私と
なたの関係を壊していきます。

だからこそ、今皆さんと分
かち合いたい言葉が冒頭の
箇所です。主イエス様は真ん
中に立つておられます。私た
ちの現実の只中に身を置かれ
て十字架の死、つまり私たち
のすべての身勝手さをすべて
受け止め身代わりに犠牲とな
ってくださったお方が、「あ
なた方に平和がありますよ
うに」と「あなた」に「わたし
」に宣言してくださっているの
です。

復活されたイエス様は鍵を
かけて閉じこもっていた弟子
たちの心を否定せずに全受容
し、その大きな愛の中で弟子
たちのすさんだ心は徐々に開
かれ、失われた日常が回復し
ていったのです。

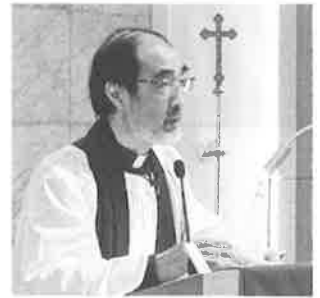
「私たちの内に働く力に
よって、私たちが願い、考え
ることすべてをはるかに超え
てかなえることができる方に、
教会により、また、キリスト・
イエスによって、栄光が世々
にわたって、とこしえにあり
ますように、アーメン」

(エフェソの信徒への手紙

3:20-21)

(八戸聖ルカ教会 牧師)

2020年3月11日
「東日本大震災9周年記念の祈り」説教
苦しみ、悩む人々と共に歩まれるイエスよ
司祭 フランシス 長谷川 清純



始めにいくつ
かの数字をお伝
えます。
(11日の河北新報
朝刊より、20
20年2月1日
現在)

おります。昨日は政府からイ
ベント自粛を10日間程度延長
が要請されました。それでも
宮城県内では感染者が一人
という状況から、この礼拝を
中止にする話題はでませんで
した。という訳で私たちは
集っております。

私たちが教会信徒では、磯
山聖ヨハネ教会の3名の方と、
信徒ではありませんが教会の
すぐ下のお家で亡くなられた
ご近所仲間であった1名の方
を覚えて魂の平安をお祈りし
たいと存じます。

・死者(行方不明者)

岩手4,765人

(1,112人)

宮城9,543人

(1,217人)

福島1,614人

(196人)

全国15,899人

(2,529人)

・震災関連死

岩手469人(2月末)

宮城928人(2月末)

福島2,304人

(3月5日現在)

全国3,739人(201

9年9月末現在) 約2万人

・現在人口(約)

(2011年当時人口)

岩手県122万人

(132万人)

宮城県230万人

(235万人)

福島県184万人

(202万人)

・避難者数2月10日現在

(ピーク時)

県内岩手1,729人

(4.4万人)

県内宮城1,365人

(12.8万人)

県内福島10,060人

(10.1万人)

県外岩手985人

(1,702人)

県外宮城3,969人

(8,633人)

県外福島30,914人

(62,831人)

未だ4万7千人

2011年3月11日から9
年経ちました。被災者にとり
まして、また私たちにとりま
してこの9年間というもの
どのようなものだったの
でしょうか。3月11日を前にし
て最近、特にテレビ新聞で番
組や記事の特集がかなり組ま

れました。1月11日にこの聖
堂で上映した映画「福島は語
る」に出てきた被災者もそう
なのですが、何人かが「大震
災後初めて泣いた、それまで
見せてなかった涙を初めて流
した」、というのには非情に
胸詰まるものがありました。
9年目になるまで、その方々
は辛さ、切なさ、やるせなさ、
悔しさ、憤り、嘆き、無念さ
を心の奥底深くに押し留め続
けておいた訳なのです。なん
と人は悲しいものなのでしょう
うか。涙を流して少しだけ心
の痛みが和らぐのに、とても
長い歳月が必要でした。
あなたはどうかこの9年間を
生活してきたのでしょうか。
双葉、大熊、富岡では5日か
ら10日にかけて避難指示が一



仙台基督教会

部解除になりました。時期的
に見て、東京オリンピック、
聖火リレーと合致しています。
しかし、実際の所、避難者へ
のアンケートによれば、全体
では大体6割以上は「もう戻
らない」と回答しています。

私たち聖公会の支援活動は、
当初の「いっしょに歩こう！
プロジェクト」から「だいい
に東北」「原発と放射能に関
する特別問題プロジェクト」
「Part II」、そして今日の
「東北教区東日本大震災被災
者支援プロジェクト」や管区
の「原発問題プロジェクト」
へと続いています。活動の中
で今まで継続している「水曜
喫茶」は、原発避難者たちの
ために開かれているおちゃっ
こ会です。ここに集う人たち
は10人もいませんが、とても
貴重な集会となっています。
たとえわずかな人数であろう
と、その方々の心の拠り所、
しばしの語らいの時、安らぎ
の一時となっています。そこ
に来られる原発被災者にとっ
てそうなのですが、もっと喜
ばしいのは、新地町で地震、
津波、身内の死という被災さ
れた人たちご自身が、サービ

スする人となって、原発避難者たち（プラスチックの被災者たち）のパートナーになって、新しい間柄でお付き合いしていることです。広畑お茶会もわかりです。その関係する人たちの一人として、私たち支援者と教会婦人会員たちもいるのです。

被災者支援をしてきた一つの重要な収穫は、この新しい人間関係の構築と交わりの喜びにあります。9年間でその交わりにあった方の中で数人は亡くなられ、数人は転居されましたが、残された人たちの寄り合いは、待ち焦がれる日になつていきます。箱塚桜の名取買物バス支援は別な形ですが、私たちが利用している人たちを見守り続けるのは、とても小さな働きですが、とても大切な働きでもあります。このような人間関係の現実が得がたく価値あるもので、私たちにとっては神様からの賜物です。



盛岡聖公会

へたばってしまったっている、正義はどこへいったと叫んでいる。人々に対して、イエスはそういうあなたたちこそ

「神の国を手にかけているし、慰めを受けるから、神からのご褒美をいただけるから、正義はあなたのものだぞ」と語り聞かせています。ご苦労をされて何も希望がないようではあるけれど、そのような人に神様は側に付いているからな、それを信じろよ、とのお言葉を掛けてくださっておられます。そういう人々が神様にきつと報われるのです。「憐れみの心、情けが深く、心優しく、神様の平安をしめし、痛めつけられている」といふのは、神様に良しとされ、祝福されるでしょう、と

論されています。私たちは、本日の特務にあった「わたしたちがあなたの創造の美しさを回復させるために、小さい器として用いられますように」と祈ります。「そのためにも力と導きをお与えください」と祈るものです。

「苦しみ、悩む人々と共に歩まれる」イエス様です。そのイエス様のように私たちも隣人として、友としてこの厳しい世の中を生き抜かれるため、本当にイエス様からのお力をいただきたいと願うのです。大震災も、その後にも発生している多くの自然災害、特に昨年の台風による痛手から人々を立ち上がらせてくださいますように、神様にお祈り致します。

主の平和
(於 主教座聖堂 仙台基督教会)

あの日から9年目となった今年の記念礼拝は、感染症拡大に配慮しながら行われました。大勢が集まることを避けるなど礼拝の持ち方を変えざるを得ない中、それでも教区内では9会場、計百余名の参

加がありました。

信徒の方がボランティアの経験を元に勧話をされた教会。県内の近隣教会、他教区、他教派、関係幼稚園の保護者の参加もあつたところ。またある教会では、取りやめになることを知りつつ居ても立つてもいられずにいらした方と待機していた司祭が2人で祈りを捧げた等、各会場から心をこめて祈られたことが報告されました。そして多くの方が、正に「同じ時 想いを一つに」ご自宅等それぞれの地で祈りの輪に連なりました。

被災地と、未だ悲しみと困難の中にある方々に寄り添い共に歩いていくこと、その想いを改めて心に留める一日となりました。
(編集部)



磯山・祈りの庭

常置委員会報告 4/20開催

■主教報告

動静報告。「新型コロナウイルス感染症拡大防止」に関する対応はじめ教区内諸対応事項について報告。

■常置委員長報告

感染症拡大防止のための教区内諸行事及び協議の持ち方について、主教と協議、教区主教名で各主事と部門長へ書簡発信等について報告。

■主教諮問事項

■教役者人事について

加藤博道主教の4月以降の働きについて確認し、公示内容を答申。

■協議事項

■教区事務所拡張について

前回常置委員会の承認、仙台基督教会教会委員会の合意を受け、本工事の着工を確認。

■教区諸委員の変更について

教役者の人事異動、転籍、定年退職等に係るグループ・リーダー等の変更について確認と承認。

■宣教強化資金融資案件

学校法人聖公会盛岡こひつじ学園及び盛岡聖公会への融資案件について追認。

日本聖公会第5回ハラスメント防止・対策担当者会に出席して 2020年2月23日(日)～24日(月・休)

ハラスメント防止・対策委員会 委員長 アンナ 赤坂 典子

管区担当者を含めた17名による「ハラスメント防止対策担当者会」は、初日、各教区の「防止対策」の取り組みに

を持ちました。その中で、東北教区の現状についても報告依頼がありましたので、次のように報告しました。

課題である、という感想がグループディスカッションの場でも出ました。

まず、スライドを用いて各県の教会や幼保園を紹介し、それぞれが密接な関わりを持つていることや、信徒数、それを上回る園児数と教職員数、その数の推移なども紹介しました。その後、これまで取り組んできた仕組みづくりについて触れたところ、1月にいった「ハラスメント防止対策に関する合同研修会」を教区内諸グループが協働して行ったところが、出席者の興味を引いたようでした。ハラスメント防止対策委員会単独の研修ではなく、奉仕職養成グループや保育連盟、人権担当など諸グループが合同でハラスメント防止対策に取り組んでいくこうとしている姿勢が評価されたようです。しかし、前述の「教会と幼保園の密接な関わり」は、大きな恵みであると同時に教会（教役者も含む）と幼保園の職員・園児・保護者間のハラスメントが、より起こりうるということ、防止と対策が今後の

この他、管区内で起こったハラスメント事件の検証や、組織の整備についての研修、資料を読み込んでの質疑応答などもあり、短い時間でしたが、非常に中身の濃い2日間でした。出席させていただいたことに感謝し、ここで学んだことをこれからの活動に反映させていけるよう努めていきたいと思えます。

最後に1月の研修会出席者からのアンケート結果の一部を報告致します。

●自分は大丈夫という思いを持たずに、誰もが起こしうる、受けるかもしれないと思うところが大切●職場も教会も「話せる」「聞く」環境作りが大切●「ハラスメント」の種類

の多さに驚いた●自分の意見を述べる際、違った意見を持つ相手を尊重し攻撃的にならないよう気を付けたい●これからも「人を大切にすること」という共通点を大切に各グループが協働して研修を持つてほしい●次回をもっと広く参加者を募ってほしい、等でした。

きたいと話し、それぞれの課題や事例などの紹介を交えた情報交換をしました。2日目は、神戸教区からの事例報告や各教区内のハラスメント傾向を把握し対策を考える時間

をもちました。その中で、東北教区の現状についても報告依頼がありましたので、次のように報告しました。

課題である、という感想がグループディスカッションの場でも出ました。

U26(ゆーじろー)に参加して 仙台基督教会 クリストファー 石澤 優樹



プログラムは、「幸せってなに?」「2020年の目標」、「集会をふりかえって」、の3つのテーマについての分ち合いや、グループに分かれて与えられたお題について討論し合うデイベート大会、

今年の2月に第8回のU26(ゆーじろー)集会に参加してきました。会場は大阪府にある信太山青少年野外活動センターで、2泊3日のスケジュールでした。今回のU26集会は、各教区の18歳から26歳までの若い世代の青年が自発性を持つきっかけの場になって欲しいということから、「start on ONE, s own」自分から始める＝主体性・自主性」というスローガンでした。

今回は、北は北海道教区、南は沖縄教区から35人の青年が参加し、分ち合いなどのプログラムの通じて、青年たちの個々の教会を越えたつながりを深めることができました。今回の集会で得ることのできたことを今後の教会での活動に生かしていきたいと思

私は今回でU26集会への参加は3回目となりました。新しい青年との出会いや、前回のU26集会で出来た仲間と再会し、近況などを話しながらお互いの成長を感じられる楽しい時間となりました。

プログラムは、「幸せってなに?」「2020年の目標」、「集会をふりかえって」、の3つのテーマについての分ち合いや、グループに分かれて与えられたお題について討論し合うデイベート大会、



仙台基督教會聖ペテロ伝道所
ステパノ 米谷 年法



私は、小
学校で特別
支援学級の
担任をして
います。前

任校で特別支援学級を担任することになったのは、本当に突然のことでした。特別支援教育に興味があり、機会があれば挑戦してみたいなどぼんやりとは思っていましたが、特に特別支援教育のことを学んだわけではないし経験もありません。あるのは、特別支援学級の子どもたちに声をかけるなどの関わりがあった程度です。4月から特別支援学級を担任するということに対する不安が一杯の中で新年度を迎えることになりました。そんな時、ふと思いついたのは、聖ペテロ伝道所とおもちゃ図書館のことでした。当時学生だった私は、所属するボランティアサークルの顧問の新妻卓逸先生に連れら

れ伝道所を訪ねました。そして、ボランティアとしておもちゃ図書館と関わるようになりました。おもちゃ図書館の子どもたちと、おもちゃで一緒に遊んだり、からだ全体でふれ合ったりして、とにかくよく遊びました。おもちゃ図書館の活動はとても楽しく、無邪気な子どもたちとの時間が自分にとって大切なものになっていきました。そんなことを思い出すと次第に気持ちが高落ち着き、新しい環境でまた頑張ってみるかという気持ちになっていきました。

伝道所に顔を出しているうちに、信仰としてキリスト教と向き合うようになりまし。キリスト教系列の学校でしたので、毎日礼拝は行われており、身近かなものと感じてはいましたが、それは信仰とは結びつかないものです。ただ、聖ペテロ伝道所でのたぐさんの方々との出会い、それが信仰への入口になったのかと思います。特に越山健蔵司祭とそのご家族との出会いは、大きかったと思います。それこそ、神様のお導きがあったのだとしかいいようがないのです。今もなぜキリストを信じるようになったのか、説明したり言葉で表現したりすることは難しいのです。「長い間離れていた教会になぜ戻ろうと思ったのか」と同じです。「ただ、神様のところに帰りたいと思ったから」としかいえないのです。

3年ほど特別支援学級の担任を経験した後、通常の学級の担任をしたいと、今勤めている学校に異動しました。それでもここ数年は、特別支援学級の担任として過ごしています。これもまた神様の導きだと思っています。個性豊かな子どもたちとの日々は、毎日が新鮮で楽しく、学ぶことの意味について考えさせられます。また、それぞれに違った課題を抱えていても「分かった」という子どもの笑顔が見られると、今まで感じたこともない喜びを感じています。そんな時、「あなたが今関わるべき仕事はこれなんだよ」と、神様がおっしゃっているのだらうと思います。これからは人との繋がり、子どもたちの笑顔を大切にしていきたいと考えています。

盛岡・仁王幼稚園新園舎完成
「大きな大きなプレゼント」
園長 クリスティナ 曾根 美砂



「きれい！」「広い！」「ホールに響く声。声をあげながらぐるぐる駆け出す園児たち。園児が新園舎に入るの引越してからの楽しさでしたが、コロナウイルス感染症予防のため新園舎を見ないまま3学期が終わるかもしれないと、急遽皆で新園舎を見に行くことにしました。

「きれい！」「広い！」「ホールに響く声。声をあげながらぐるぐる駆け出す園児たち。園児が新園舎に入るの引越してからの楽しさでしたが、コロナウイルス感染症予防のため新園舎を見ないまま3学期が終わるかもしれないと、急遽皆で新園舎を見に行くことにしました。あれから一カ月。いろいろな制限があったものの保育は無事に行われ、旧園舎・仮園舎・新園舎と3つの園舎で過ごした2019年度が感謝の祈りの中で終わりました。新園舎は、毎日私たちに笑顔と元気を送ってくれます。これも全て沢山のお祈りやお支えを下さった皆様のおかげです。心からお礼申し上げます。皆様を一日も早くご招待できる日が来ますように。その日を楽しみにして……主に感謝！

引き渡しが終わったばかりの園舎に入り「新しい仁王幼稚園に着きました」という職員の声に「やったーッ！」とこぼしを挙げて応える園児の姿を見て、神様からいただいた大きなプレゼントへの感謝の気持ち溢れました。早速、年長児が年少児の手を引



青森聖アンデレ教会

あまりイベントのない当教会で、11月に親睦会も兼ねて総勢50人で棒パンや焼きそば等を作って食べました。パンの生地を棒の先端に巻き自分で焼くのは楽しいですが、一心に火を見つめて焼くのは「忍」の一字です。二刀流の方もいて、器用に手を動かし焼いていました。小雪がちらつく中、聖マリア幼稚園の車庫の中の風景は外から見るとまるでつり堀の魚釣り状態に見えました。焼くことに大方の時間を使い、目的の親睦の火は弱火でした。

弘前昇天教会

春は卒業・入学や就職などの季節であり、周りにいる人たちが成長していく姿を見るのは嬉しいことであり、時の流れを感じることである。

今回の人事異動で当教会管理牧師(青森聖アンデレ教会牧師) 中山茂司祭が横浜教区

に転籍されました。弘前には二度の勤務で約11年間、たいへんお世話になりました。

中山司祭には、新任地での活躍とご健康を遠く離れた津軽からお祈りしています。

釜石神愛教会

釜石神愛幼児学園の卒園式は、新型コロナウィルス対策のため、卒園児とその保護者、当園関係者のみで行われました。緊張はしましたが、落ち着いた心の温まるとても感動的な式になりました。

卒園児は翌週からも全員元気に通ってきました。保育園ならではの光景ですね。手洗い徹底のおかげか、在園児にも欠席者はなく、みんな元気で、今年度最終日まで一緒に過ごしていました。

能代キリスト教会

世界遺産白神山地の麓のふきのとうも顔を出し、どじょうも冬眠から目が覚めた頃、能代キリスト教会の工事現場では99%完成。室内は対の大黒柱。南側の大黒柱は十字架の造形に、対して北側の大黒柱はモーゼの杖の様に天に直

角に。天井を貫いて信仰に輝いている信徒の心の証し。聖書の如く語り掛けている。是も全て東北教区の皆様方方の素晴らしい献金の賜物で、心から愛を以て感謝感謝しております。

仙台基督教会

仙台基督教会では、教区主教文書「新型コロナウィルス感染症拡大に伴うご注意No.3」に先立つ3月16日より全ての礼拝を休止しました。

そして3月29日に長谷川司祭様の仙台最後の聖餐式をライブ配信しました。教会内外を問わず多くの反響を頂きました。仙台基督教会(日本聖公会東北教区)のFacebookにも投稿してあります。URLをクリックし、ライブ履歴から視聴できますので、よろしかったらご覧ください。

山形聖ペテロ教会

当教会は、1910年の聖堂聖別から今年2月10日に110年を迎えました。百周年を共にした兄弟姉妹の5人が天に召され、加齢や病気のため教会へ来ることができない方々

が少しずつ増え、教会員の構成が大きく変わりました。

しかし、教会堂は変わることなく祈りの場として存在してきました。幾多の災害から守られてきた聖堂は神様の御見守りの証しです。これからも宣教の拠点として信徒一同で守り続けていきます。

若松諸聖徒教会

一度も除雪機を出勤させないばかりか、除雪することさえなく、間もなく会津は春を迎えます。「暖冬」では表現しきれない環境の変化、「これから」への不安や疑問は尽きません、気象のことのみならず……。

しかし「わたし」が変えられるのは今日だけ。先のことや心配するために今日を使い、今日すべきことをしなければ願う未来が来ることはないと言いかせています。今日すべきことを精一杯果たせませうように、そう祈る毎日です。

5月逝去者記念聖餐式
 5月12日(火)午前10時
 於 主教座聖堂
 司式 吉田 雅人 主教
 説教 (未定)

司祭 Allan Worthington Cooke

1944年5月6日逝去

宣教師 Miss Irene P. Mann

1927年5月19日逝去

宣教師 Miss Dorothy F. Hittle

1940年5月28日逝去

司祭 バルナバ 与賀田千秋

1997年5月28日逝去

司祭 ナタナエル 佐々木正市

1996年5月29日逝去

5月3日は「東北教区の青少年活動を覚え支える主日」です。教区の青年たちの活動を覚え、お祈りください。この主日のためにお献げいただいた信施は、東北教区の青少年活動、管区等青少年プログラムへの参加補助等に用いられます。

5月3日は「神学校のため」の主日です。神学校の働きに携わる方々、またそこで学ばれる方々を覚えてお祈りください。

教区ホームページがスマートフォン対応になりました。
 「活用ください。」
<http://nssk-tohoku.com/>